

機関番号：12401
 研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2008～2010
 課題番号：20530802
 研究課題名（和文） アメリカ・カナダ社会科における多文化的シティズンシップ育成の理論的・実践的研究
 研究課題名（英文） Theories and Practices of the social studies for Multicultural Citizenship in the United States and Canada
 研究代表者
 桐谷正信（KIRITANI MASANOBU）
 埼玉大学・教育学部・准教授
 研究者番号：90302504

研究成果の概要（和文）：アメリカとカナダにおける多文化的社会科教育論と「多様性」・「統一性」の両者に尊重したカリキュラムや教科書の分析を通して、アメリカ・カナダともシティズンシップ教育では、「活動的市民」、「活動的な貢献者」の育成を視野に入れた「良識ある市民」を育成することが必要であり、その「良識あるシティズンシップ」は、社会の「多様性」と「統一性」の両者を尊重した多文化的シティズンシップであることことを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：Through analyzing the theories of multicultural social studies education, the curriculums and the textbooks which are respecting both "diversity" and "unity" in the United States and Canada, this study clarified following. first, both of the United States and Canada, in the citizenship education, it is necessary that foster "informed citizen" which is including "active citizen" and "active contributor". And second, the "informed citizenship" is the Multicultural citizenship which is respecting both "diversity" and "unity" of society.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2009年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2010年度	1,200,000	360,000	1,560,000
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード：シティズンシップ教育

1. 研究開始当初の背景

(1)欧米およびアジア・オセアニア諸国における多文化教育に関する研究は、1980年代以降積み重ねられてきた。1990年代後半以降、多文化教育の必要性と不可欠性は、一部の多民族国家だけの問題ではなく、世界各国の共通の普遍的課題として認識され、多文化教育に関する研究も増加傾向にある。

(2)イギリスの「市民科」の新設を契機としたシティズンシップの育成に対する関心は、現在先進国を中心に、世界的に教育の中心課題となっている。シティズンシップ教育の研究が進められている国家は基本的に多文化社会であり、主流文化への同化理論に基づく画一的・抑圧的なシティズンシップではなく、諸マイノリティ集団に配慮した多文化的シ

ティズンシップの育成が急務となっている。

2. 研究の目的

本研究は、国内の多文化化・価値の多様化の進展に伴う教育の課題に応えるために、多文化主義 (Multiculturalism) を前提とするシティズンシップ (Citizenship) 育成のあり方を考える基礎的研究である。国内の多文化化の進展に伴い、当然教育のあらゆる側面において文化や価値の「多様性」を尊重することが要求されることとなる。しかしながら、多文化主義に基づいて教育内容の組み替えを行う際には、社会の維持・発展の基本前提となる所与の社会における「統一性」を一方で重要視しなければならない。なぜなら、社会の維持・発展においては、集団的一体感や公共的アイデンティティによる集団構成員としてのシティズンシップに基づく一定の「統一性」が不可欠だからである。

それゆえ、本研究では、多文化教育の先進国であるアメリカ合衆国とカナダにおける多文化教育論と「多様性」・「統一性」の両者に尊重した教育実践 (カリキュラムや教科書等の教材を含む) の比較検討を通して、日本における多文化的シティズンシップ教育の構築に貢献することを目的とした。

3. 研究の方法

アメリカ合衆国・カナダ社会科教育のフレームワーク、カリキュラム、教科書、教材、授業実践 (ビデオ収録) を収集するために現地調査を行い、多文化的シティズンシップ教育の内容構成・学習内容・学習形態・学習方法がどのように位置づけられているか分析した。カリキュラムに関しては、アメリカ合衆国ではニューヨーク州、カリフォルニア州を取り上げる。カナダでは、オンタリオ州・アルバータ州のカリキュラムを分析対象と

した。また、歴史教育・公民教育・環境教育に関する学習指導案及び授業実践 (現地調査で収録したビデオ) を、多文化社会における社会的意思決定と市民的行為、社会参加を育成するための学習内容・方法・活動を「多様性」と「公共性」のバランスを中心に分析した。これは、これから来るべき多文化社会日本における多文化的シティズンシップ教育のあり方 (学習内容・方法・活動・カリキュラムなど) を構築していく際の具体的な視点とした。

4. 研究成果

近年世界的に注目されているシティズンシップ教育は、「活動的市民 (Active Citizen)」の育成を目的とし、政治的リテラシーが重視されている。「活動的市民」の育成は、シティズンシップ教育の中核的目的であるが、アメリカでは、歴史を学ぶことを通して民主主義思想、伝統、自由にコミットし続けることなしに、民主主義的な公共文化を保ち続けることはできないと考えられてきた。歴史教育は、市民の「活動」の質を保証するために、「良識ある市民 (Informed Citizen)」の育成を目的としてきたのである。つまり、アメリカでは伝統的に、歴史教育がシティズンシップ教育を担う中核教科・科目として位置づいてきたといえる。このシティズンシップ教育としての歴史教育の展開において問題となるのは、「良識ある市民」の内実である。アメリカ社会をどのような社会と認識するのか、アメリカの「良識ある市民」とはどのようなシティズンシップを備えることが必要であるのか、が問われる。現在のアメリカの歴史教育は、何らかの形で多文化教育として展開されている。アメリカにおいて文化的「多様性」を無視した歴史教育は不可能だからである。ゆえに、そこで育成が目指される

シティズンシップは、多文化的シティズンシップなのである。

本研究では、アメリカの多文化的歴史教育における「良識あるシティズンシップ」の育成の方法を、「多様性」と「統一性」を視点として明らかにすることを目的とした。

分析対象として、1995年に開発されたニューヨーク州合衆国史カリキュラムを取り上げる。その理由は、1980年代後半から1990年代前半の多文化論争の主要な論点の一つが、ニューヨーク州の合衆国史カリキュラムの内容であったからである。その内容構成が単なる一州の一教科の教育内容の問題ではなく、多文化社会におけるアメリカ市民の歴史認識、ナショナル・アイデンティティのあり方を左右するものだからである。合衆国史の内容構成において、文化的「多様性」とアングロ・サクソン文化による「統一性」のどちらにその中核的価値を置くかが重要な問題とされた。この問題は、さまざまなエスニック集団文化集団を内包するアメリカの「良識あるシティズンシップ」の育成において、国民統合の核になる共通の価値とはなにか、それは各エスニックなどの文化集団固有の価値とどう関わるかという問題を前提とし、多様な集団の歴史をいかにしてアメリカ社会の歴史にまとめることができるか、またその際、何を軸としてまとめるかという問いである。この問いは、アメリカにとって常に「古くて新しい問い」である。つまり、「アメリカの社会・歴史をどのように捉えるか」、「アメリカ市民とは何者か」、「多様なアメリカを国家として成り立たせているアメリカン・アイデンティティとはなにか」というアメリカが建国以来抱える本質的課題についての問題提起である。文化的「多様性」と社会の「統一性」の間の適切なバランスの上に考えなければならないのであり、どのように「多様性」

と「統一性」のバランスの適性を確保するかにかかっているのである。この「多様性」と「統一性」という視点は、ニューヨーク州社会科でも、重視されている。

ニューヨーク州のカリキュラム開発の特徴は、カリキュラム開発の前提として、合衆国とニューヨーク州という社会・地域をどのような社会・地域と捉えるかという点について検討した上で、カリキュラム開発を行っている点である。ニューヨーク州の公教育における合衆国史学習は、「アメリカ市民の育成」を最終的な目的としている。「アメリカ人とは何者か」という問いは、まさにそのための問いである。そして子どもたちが「アメリカ人とは何者か」という問いの答えを見つけるということは、子どもたちが現在生活し、今後創造し続けていくであろう「アメリカ」という社会の成り立ちを理解することに他ならないからである。ニューヨーク州は、ニューヨーク州とアメリカを一定の留保と対立意見を付しながらも多文化社会と規定し、多文化社会アメリカ・ニューヨーク州の歴史の認識を目標としたカリキュラム開発を行っている。

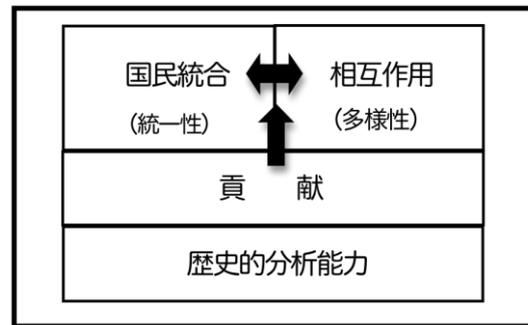
ニューヨーク州におけるシティズンシップ教育としての多文化的歴史教育は、「多様性」のみの尊重ではなく、多様なアメリカをその「多様性」を尊重しながらも、アメリカ人としてのナショナル・アイデンティティ形成のためのアメリカ的伝統によって一つの国家としてまとめあげてきた「統一性」を学習すべき価値として位置づけているのである。そこで問題になる点が、統一性と多様性の学習の適切なバランスである。「誰の歴史が、そしてどの歴史が」という問いは、アメリカをどのような社会と見なすかという社会認識への問いであり、その形成に関する歴史認識への問いである。

ニューヨーク州は、フレームワークにおいて社会科の存在意義を以下のようにいう。

「究極的に、社会科は、生徒がアメリカの立憲制民主主義における責任ある市民 (Responsible citizen) として、そして多様性と世界中の他の国々との相互依存が増大する社会への積極的な貢献者 (Active contributor) として役割を受け入れることを支援しなければならない。」(New York State Education Department, 1995, *Curriculum, Instruction, and Assessment Preliminary Draft Framework for Social Studies* p.5. 下線引用者。)

それは、生徒に、「アメリカ人とは何者か」「アメリカ人の価値と伝統とは何か」「どのようにして現在の習慣を身に付けてきたのか」「どのようにしてアメリカの多様性の中から統一性を見つけだしたのか」といった疑問に直面させることであり、「アメリカ人とは何者か」を模索させることを通して、シティズンシップを育成しようとしているのである。アメリカ歴史教育の本質的な課題は、常にアメリカ建国以来の国是である「多様性の中の統一 (E Pluribus Unum)」の実現であり、市民の参加的「活動」を保証する「良識ある市民」の育成である。それは、「多様なアメリカの歴史をまとめること」であり、その「多様性」の理解と、国家をまとめあげる「統一性」の核とはなにかを問うことである。その問いに対し、ニューヨーク州は、アメリカの民族的・文化的「多様性」の理解と、合衆国憲法、独立宣言、権利章典に基づく民主主義思想を中核としたアメリカン・アイデンティティの創出による「統一性」の尊重を、多様なすべてのアメリカ人の「貢献」という視点から織り上げる方法をとったのである。この「多様性」と「統一性」の両者の尊重からアメリカ社会の成立と発展を捉える認識

が、「活動的市民」や「活動的な貢献者」の「活動」の質を高める「良識ある市民」に必要な「良識」とされたのである。



図：合衆国史スタンダードの「キー概念」の構造

シティズンシップ教育としての歴史教育では、この「活動的市民」、「活動的な貢献者」の育成を視野に入れた「良識ある市民」を育成することが必要であり、その「良識あるシティズンシップ」は、社会の「多様性」と「統一性」の両者を尊重した多文化的シティズンシップであることが必要なのである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

- ① 桐谷正信, アメリカ多文化的歴史教科書におけるマイノリティの位置づけ-1950-1980年代-, 埼玉大学紀要 (教育学部), 査読有, 第60巻, 第1号, 2011, pp. 79-91
- ② 桐谷正信, シティズンシップ教育としての多文化的歴史教育-「多様性」と「統一性」を視点として-, 埼玉大学紀要 (教育学部), 査読有, 第59巻, 第1号, 別冊1, 2010, pp. 57-67
- ③ 桐谷正信・加賀谷徳之・岡田大助, 小学校社会科における「道」の教材化-大学と附属小学校との協働による教員養成-, 埼玉社会科教育研究, 査読有, 第16号 2010,

pp. 67-90

- ④桐谷正信・西尾真治・宮澤好春，マニフェスト型思考を用いたシティズンシップ教育の実践-桶川市立加納中学校の選択科目「社会」の事例-，埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター紀要，査読無，第7号，2008，pp. 213-229

[学会発表] (計3件)

- ①桐谷正信，グローバル時代の多文化的歴史教育におけるシティズンシップの育成，日本国際理解教育学会第20回大会特定課題研究シンポジウム，2010.7.4，聖心女子大学
- ②藤原孝章・桐谷正信・織田雪江・栗山丈弘・韓敬九・林慶澤・徐京田・車ボウン・郭ブン霞，食をテーマとした日韓中相互理解のための教材開発，韓国国際理解教育学会第10回研究大会，2009.11.13，梨花女子大学（韓国）
- ③桐谷正信，多文化的歴史学習における構築主義的思考の育成，全国社会科教育学会第58回全国研究大会シンポジウム，2009.10.10，弘前大学

[図書] (計4件)

- ①森茂岳雄・大友秀明・桐谷正信編著，梓出版社，新社会科教育の世界-歴史・理論・実践-，2011，210
- ②桐谷正信，社会科の新展開，森茂岳雄・大友秀明・桐谷正信編著，梓出版社，新社会科教育の世界-歴史・理論・実践-，2011，pp. 54-82
- ③桐谷正信，市民教育としての交通まちづくり学習の構想，谷川彰英監修，江口勇治・井田仁康・伊藤純郎・唐木清志編著，東京書籍，市民教育の改革，2010，pp. 204-213
- ④桐谷正信，歴史認識と国際理解教育，明

石書店，日本国際理解教育学会編著，グローバル時代の国際理解教育-実践と理論をつなぐ-，2010，pp. 226-231

6. 研究組織

(1) 研究代表者

桐谷正信 (KIRITANI MASANOBU)
埼玉大学・教育学部・准教授
研究者番号：90302504

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

坪田益美 (TSUBOTA MASUMI)
筑波大学大学院・人間総合科学研究科

宮崎沙織 (MIYAZAKI SAORI)
筑波大学・教育学系